



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	小泉武栄先生著作目録（小泉武栄先生を送る）(fulltext)
Author(s)	
Citation	学芸地理(67): 3-16
Issue Date	2013-03-01
URL	http://hdl.handle.net/2309/134155
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	

小泉武栄先生 著作目録

原著論文

- 木曾駒ヶ岳高山帯の自然景観 - とくに植生と構造土について -. 日本生態学会誌 24 : 78-91. 1974
- レバノン山脈の気候地形. 地学雑誌 85 : 65-78, 1976.
- Climato-genetic landforms around Jabal ad Douara and its surroundings, Syria. Hanihara, K. and Y, sakaguti ed. *Paleolithic site of Douara Cave and Paleogeography of Palmyra Basin, Syria. University Museum, University Tokyo Bulletin* 14: 29-51. 1978.
- 高山の寒冷気候下における岩屑の生産・移動と植物群落一I. 白馬山系北部の高山荒原植物群落. 日本生態学会誌 29 : 71-81. 1979.
- 高山の寒冷気候下における岩屑の生産・移動と植物群落一II. 北アルプス北部鉢ヶ岳付近における蛇紋岩強風地の植物群落. 日本生態学会誌 29 : 281-287. 1979.
- 高山の寒冷気候下における岩屑の生産・移動と植物群落一III. 北アルプス北部鉢ヶ岳付近の花崗斑岩地及び古生界砂岩・頁岩地の風衝植物群落. 日本生態学会誌 30 : 173-181. 1980.
- 高山の寒冷気候下における岩屑の生産・移動と植物群落一IV. 木曾山脈檜尾岳付近の現世及び化石周氷河斜面の風衝植生. 日本生態学会誌 30 : 245-249. 1980.
- Geocology of the alpine zone of the Japan Alps. *Bull. Tokyo Gakugei Univ. Ser. III.* 31 : 93-105. 1980.
- 高山の周氷河岩屑斜面の形態に関する一考察. 学芸地理 35 : 22-37, 1981. (小泉武栄・永津壽一)
- 木曾山脈主稜部における周氷河性岩屑生産. 第四紀研究 20:281-287. 1982. (小泉武栄・柳町 治)
- 化石周氷河斜面, 雪食凹地ならびに山地貧養泥炭地の形成からみた晩氷期以降の多雪化について. 第四紀研究 21 : 245-253, 1982.
- 高山の寒冷気候下における岩屑の生産・移動と植物群落一V. 乗鞍火山の高山植生. 東京学芸大学紀要第3部門 34 : 73-88. 1982.
- 高山植生の新しい見方. 地理 27 (4) : 29-36. 1982.
- 世界的視野からみた日本の高山帯. 長野県植物研究会誌 16 : 53-57. 1983.
- 高山帯における無植生地について. 沼田 真教授退官記念論文集『現代生態学の断面』共立出版 : 249-254. 1983.
- Alpine plant community complex on permafrost areas of the Daisetsu mountains, Central Hokkaido, Japan. *Permafrost Fourth International Conference Proceedings*, 634-638. 1983.
- 大雪山永久凍土地域の植物群落. 日本生態学会誌 33 : 357-363. 1983. (小泉武栄・新庄久志)
- 上越平標山の埋没泥炭層からみた完新世後期の気候変化. 地理学評論 57:739-748. 1984. (小泉武栄・山川信之・原 篤・坂本里美)
- 日本の高山帯の自然地理学的特性. 福田正巳・小疇 尚・野上道男編『寒冷地域の自然環境』北大図書刊行会 : 161-181. 1984.
- 高山の寒冷気候下における岩屑の生産・移動と植物群落一VI. 南アルプス赤石岳の風衝植物群落. 日本生態学会誌, 35, 253-262. 1985. (小泉武栄・田村光穂)
- ゲーテの自然地理学. 東京学芸大学紀要第3部門 37 : 43-50. 1985.

- 黄河源流地域の植生. 科学 56 : 554-565. 1986.
- 黄河源流地域の地形と植生. ヒマラヤ 187 : 1-6. 1986.
- 黄河源泉のアイスピングとピング. 学芸地理 40 : 41-47. 1986.
- 「自然と人間の関係」を把握するための調査技術に関する一考察. 新地理 34 (2) : 31-39. 1986.
- 高山の気候寒冷下における岩屑の生産・移動と植生群落—VII. 北アルプス蝶ヶ岳の強風地植物群落. 日本生態学会誌 38 : 201-210. 1988. (小泉武栄・関 秀明)
- 木曾山脈における周氷河性平滑斜面の斜面形と斜面低下量. 東京学芸大学紀要第3部門 40 : 129-145. 1988. (柳町 治・小泉武栄)
- 多摩川源流域森林立地に関する地形・地質学的研究. とうきゅう環境浄化財団研究助成 no. 114 : 44p. 1988. (小泉武栄・鈴木由告・清水長正)
- 北アルプス薬師岳高山帯における斜面発達と強風地植物群落. 日本生態学会誌 39 : 121-130. 1989.
- 青潮地域の奇妙な植生—南からのルートと氷期のレトリック. 地理 34 (5) : 26-33. 1989.
- Ice-wedge formation in Seymour Island (Marambio Island), Antarctic Peninsula Region. *Proceedings of NIPR Symposium on Antarctic Geosciences*. no. 3: 147. 1989 (小泉武栄・福田正巳)
- 黄河源流地域における三種類の湖沼群. 地学雑誌 98 : 73-81. 1989.
- 地質がきめる高山植生の分布. 日本の生物 4(5) : 66-71. 1990.
- 亜高山帯の自然地理とその歴史的背景. 植生史研究 6 : 15-23. 1990.
- 白馬岳の高山植生. 日本の生物 4(8) : 54-59. 1990.
- 中央アルプスの高山植生. 日本の生物 4(10) : 54-59. 1990.
- Development of alpine plant communities in the Japanese Alps, in relation to slope development since the Last Glacial Age. *Abstracts of the V International Congress of Ecology*, Yokohama:86. 1990.
- 千葉県清澄山におけるヒメコマツの分布とその存続条件. 学芸地理 45 : 39-50. 1991. (小泉武栄・有井仁美)
- 南アルプスの高山植生. 日本の生物 5(1) : 58-63. 1991.
- カタクリを用いた自然誌教育の試み. 野外教育(東京学芸大学附属野外教育実習施設) 3 : 13-21. 1991.
- 風化皮膜から推定した木曾駒ヶ岳の化石周氷河斜面の形成期. 季刊地理学 44:245-251. 1992. (小泉武栄・関 秀明)
- 自然地理学者から人文地理学者へ. 東京学芸大学紀要第3部門 43 : 103-115. 1992.
- 風化皮膜から推定した北アルプス薬師岳高山帯における岩屑の供給期. 地理学評論 66A : 269-286. 1993. (小泉武栄・青柳章一)
- 我が国の自然. 岡島成行編『自然との共生をめざして』ぎょうせい : 3-15. 1994.
- 『三頭山における集中豪雨被害の緊急調査と森林の成立条件の再検討』とうきゅう環境浄化財団研究助成 no. 164. 1994.
- 山梨県櫛形山における遺存植物ヒメザセンソウの生育環境とその存続条件. 山梨植物研究 no. 7 : 18-35. 1994. (小泉武栄・内藤大輔)
- 司馬遼太郎の地理学. 東京学芸大学紀要第3部門 46 : 277-292. 1995.
- 白馬岳高山帯「節理岩」における植生遷移と斜面発達. 地学雑誌 104 : 503-514. 1995.
- 多摩丘陵西部七国峠付近におけるタマノカンアオイの地形分布と分布拡大様式. 『多摩丘陵西部におけるタマノカンアオイの分布・生態と保護・育成に関する研究』とうきゅう環境浄化財団(一般) 研究助成 no. 86 : 3-53. 1995. (小泉武栄・

- 押本絵里)
 地下茎の形態変化からみたタマノカンアオイの分布様式と地表変動. 『多摩地域におけるカンアオイ類の分布・生態と保護・育成に関する地生態学的研究』とうきゅう環境浄化財団(一般)研究助成 no. 86 : 57-109. 1995. (小泉武栄・牧野智子)
- 多摩地域における谷津田の消滅と地形改変. 環境科学会誌 9(1) : 109-110. 1996. (小泉武栄・山田 修)
- 山岳地域の景相生態. 沼田 眞編『景相生態学』朝倉書店 : 26-32. 1996.
- 三国山脈・平標山におけるパッチ状裸地の形成プロセスと侵食速度. 季刊地理学 49 : 1-14. 1997. (小泉武栄・原田経子)
- 地球温暖化の中の極地植生. 科学 67 : 850-861. 1997.
- 日本海の島嶼と半島の植物相. 市川健夫編『青潮分化—日本海をめぐる新文化論』古今書院 : 144-162. 1997.
- 生物のハビタットとしての地形・地質. 沼田 眞編『自然保護ハンドブック』朝倉書店 : 114-125. 1998.
- 高山域の自然保護. 沼田 眞編『自然保護ハンドブック』朝倉書店 : 583-589. 1998.
- 川と日本人の歴史. 地理 43(9) : 30-37. 1998.
- 羽後朝日岳の山頂部における階段状地形の成因とその生態学的意義. 和賀山塊自然学術調査会『和賀山塊の自然』 : 81-86. 1999. (小泉武栄・辻村千尋・目代邦康・酒井 啓)
- 羽後朝日岳とその周辺の地形. 和賀山塊自然学術調査会『和賀山塊の自然』 : 81-86. 1999. (目代邦康・酒井 啓・辻村千尋・小泉武栄)
- 日本海側多雪山地における地すべり起源の植物群落. 東京学芸大学紀要第3部門 50 : 49-59. 1999.
- 鬼首片山地獄の硫気孔原植生の群落立地要因. 北海道大学農学部演習林研究報告 57 : 71-94. 2000. (香山雅純・野村 睦・佐藤冬樹・小泉武栄)
- 多摩地域におけるカンアオイ属の分布. 『多摩地域におけるカンアオイ類の分布・生態と保護・育成に関する地生態学的研究』とうきゅう環境浄化財団(一般)研究助成 no. 126:7-23. 2000. (小泉武栄・小俣軍平・辻村千尋).
- カントウカンアオイの分布・生態と地表変動との関わり—加住丘陵切欠地区の一小谷における検討. 『多摩地域におけるカンアオイ類の分布・生態と保護・育成に関する地生態学的研究』とうきゅう環境浄化財団(一般)研究助成 no. 126 : 27-58. 2000. (小泉武栄・佐藤寛子).
- 里山の自然保護. 地理 46(6) : 41-62. 2001.
- 北アルプスの自然景観. 大町山岳博物館編『新・北アルプス博物誌』 : 3-8. 2001.
- 日本人の風景観と美的感覚の変遷—万葉集の時代から現代まで. 東京学芸大学紀要第三部門 53 : 137-156. 2002.
- 美しく世界的にも特異な日本の山—世界的な視野から日本の高山を見直す. 山岳 97 : 85-92. 2002.
- 登山史の中の富士山. 青弓社編集部編『富士山と日本人』 : 87-104. 青弓社.
- 地質からのアプローチ. 横山秀司編『景観の分析と保護のための地生態学入門』古今書院 : 92-108. 2002.
- 日本の高山, その特異性と美しさ. 科学 72 : 1226-1227. 2002.
- Factors for the Distribution of Polar Oases in Ellesmere Island, Arctic Canada, from the viewpoint of Geocology. *Geographical Review of Japan* 76B : 270-280. 2003.
- 東京都玉川上水の水路法面崩落と樹木管理に関する研究. 環境情報科学論文集 17:13-16. 2003. (佐藤 力・大塚生美・趙 賢一・小泉武栄)
- 日本の高山—その特異性と美しさ. 梅棹忠夫・山

- 本紀夫編『山の世界 自然・文化・暮らし』岩波書店：165-174. 2004.
- 棚田を用いた環境教育と体験教育. 農林統計調査 2004年4月号：20-24. 2004.
- 化学物質過敏症発症者の症状と生活実態. 環境教育学研究 (東京学芸大学環境教育実践施設) 15：13-28. 2005 (小泉武栄・林 聡子)
- 風食による植被の破壊がもたらした強風地植物群落の種多様性—飯豊山地の偽高山帯における事例. 長野県植物研究会誌 38：1-9. 2005.
- 高尾山の自然はなぜ守らなければならないか. 明日への文化財 no. 53：3-11. 2005.
- 中国・内モンゴルのアバガーホシュー草原における飼育家畜の密度と草原荒廃の関係. 東京学芸大学紀要人文社会科学系Ⅱ 58:21-35. 2007. (賽西雅拉図・酒井 啓・小泉武栄)
- 多摩川中流域の河床に発達する「牛群地形」について—その1分布と出現の経緯. 学芸地理 62：35-45. 2007. (小泉武栄・徳竹真人)
- 地学野外教育の推進とフィールドの保全. 地質ニュース 640：11-19. 2007.
- ヨーロッパにおける山の風景面の誕生とその変遷. 東京学芸大学紀要人文社会科学系Ⅱ 59：59-68. 2008.
- ラスキンの山岳論. 東京学芸大学紀要人文社会科学系Ⅱ 59：147-153. 2008.
- 日本の自然の素晴らしさを再発見しよう. 北海道の自然 (北海道自然保護協会) 46：2-6. 2008.
- 地域振興・人材育成とジオパーク・世界遺産. 地理 53(9)：39-46. 2008.
- 自然史研究の進展に基づく国立公園の再評価と新たな役割の発見. 国立公園 669：5-8. 2008.
- 世界ジオパーク登録と地学教育復興への期待. サイエンス・ポータル 2009年9月1日号 (<http://scienceportal.jp/HotTopics/opinion/121.html>). 2009.
- ジオパーク・ジオツーリズムによる地域振興と人材育成. 月刊地球 31：541-549. 2009.
- 最終氷期以降の高山・亜高山植生の分布の変遷と現在の高山環境. 増沢武弘編『高山植物学』共立出版：17-33. 2009.
- 高山の地形・地質の成り立ちと高山植物群落. 増沢武弘編『高山植物学』共立出版 49-68. 2009.
- 地形・地質の危機：『日本の地形レッドデータブック』. 日本第四紀学会電子出版編集委員会編『デジタルブック最新第四紀学』日本第四紀学会. 2010. (小泉武栄・青木賢人)
- 長島田ノ浦付近の地形・地質. 日本生態学会上関要望書アフターケア委員会編『奇跡の海—瀬戸内海・上関の生物多様性』南方新社：146-155. 2010.
- 玉川上水における法面の非対称とその成因. 地形 32：1-14. 2011. (小泉武栄・伊東敦子)
- ジオエコツーリズムの提唱とジオパークによる地域振興・人材育成. 地学雑誌 120：761-774. 2011.
- 樹木の分布を科学する—地生態学の方法と成果. 森林技術 827：14-20. 2011.
- 磐梯山爆発カルデラ内の植生分布に関する地生態学的考察. 森林技術 827：21-23. 2011. (仲尾剛・小泉武栄)
- 浅間山西部・黒斑山の先駆植生から推定される新期火山活動. 森林技術 827：24-26. 2011. (福地慶大・小泉武栄)
- 松本盆地西縁の扇状地群における土地利用と上流の地質との関わり. 森林技術 827：27-29. 2011. (加藤義文・小泉武栄)
- 富士山北西斜面における森林限界・樹木限界の上下動と森林の発達に関する考察—40年前の植生調査との比較を通じて. 富士学研究 9(2)：22-32. 2012. (小泉武栄・難波清芽)
- ジオパークを用いた環境教育—私の独断的環境教育論. 環境教育学研究 (東京学芸大学環境教育研究センター研究紀要) 21：75-96. 2012.

自然災害と荒ぶる神. 石井正己編『震災と語り』
三弥井書店：7-14.
富士山北西斜面・御庭付近の森林限界移行帯にお
ける火山噴火史と樹種ごとの年輪構成から推
定した森林の遷移. 富士学研究 10(1)：9-15.
2012. (難波清芽・小泉武栄)

総説

構造土限界線について. 地理学評論 46：618-624.
1973.
山地における地形分類の最近の動向と課題. 地学
雑誌 86：110-120. 1977.
地形学と生態学の接点. 地形 13：333-339. 1992.
日本における周氷河性平滑斜面の研究. 地理学評
論 65A：132-142：1992.
Recent progress in geocology in Japan.
Geographical Review of Japan 69B：160-169.
1996.
日本における地生態学(景観生態学)の最近の進歩.
生物科学 48：113-122. 1996.
自然地理教育の再生をめざして. 新地理 44 (3)：
40-48. 1996.
地すべり地の土地利用と植生に関する従来の研究.
学芸地理 52：25-34. 1997.
氷河時代と森林. 水利科学 41(4)：1-12. 1997.
東北地方における山地植生の成立環境. 日本生態
学会東北地区会報 58：1-6. 1998.
日本における地生態学の研究. 横山秀司編『景観
の分析と保護のための地生態学入門』古今書院：
39-50. 2002.
植物生態学と地生態学を巡って. 日本環境アセス
メント協会編『エコロジストの時間』東海大学
出版会：130-133. 2008.
地生態学の勧め. 法政地理 42：1-8. 2010.

学位論文

日本アルプスにおける高山風衝植物群落の生態地
理学的研究—地質および斜面発達と植物群落—.
(東京大学 理学博士). 1990. 2. 22

著書

(単著)

『日本の山はなぜ美しい』古今書院, 286p. 1993.
『日本の自然をまもる—美しい風景と地形』岩崎書
店, 41p. 1995.
『山の自然学(岩波新書)』岩波書店, 232p. 1998.
『山歩き其自然学』山と溪谷社, 142p. 1998.
『登山の誕生(中公新書)』中央公論社, 224p.
2001.
『山の自然教室(岩波ジュニア新書)』岩波書店,
204p. 2003.
『海のある地域の暮らし』旺文社, 47p. 2005.
『自然を読み解く山歩き』JTBパブリッシング,
191p. 2007.
『日本の山と高山植物(平凡社新書)』平凡社,
238p. 2009.

(共著, 共編著または分担執筆)

『自然環境の生い立ち—第四紀と現在—』朝倉書店.
1979. (田淵 洋編, 共著)
『新編瑞穂村誌』新編瑞穂村誌刊行会. 1980. (新
編瑞穂村誌刊行会編, 地形・地質, 植生の部分
を分担執筆)
『風土の科学 I』創造社. 1982. (水山高幸ほか編,
「生物の地理」の章を分担執筆)
『日本の風土』平凡社. 1987. (松井 健・小川
肇編著, 分担執筆)
『日本の風土と文化』古今書院. 1991. (市川健夫編,
分担執筆)
『山の自然学入門』古今書院. 1992. (清水長正と
共編著)

- 『日本の地形レッドデータブック第1集』古今書院. 1994. (青木賢人と共編著)
- 『日本の自然—地域編4 中部』岩波書店. 1995. (野上道男・守屋以智雄・平川一臣・海津正倫・加藤内蔵進と共編著)
- 『田無市史 第三巻通史編』田無市市史編さん委員会. 1995. (自然の部を編集・執筆)
- 『山歩きのための山名・用語事典』山と溪谷社. 1998. (山と溪谷社山岳図書編集部編, 分担執筆)
- 『登山と自然の科学 Q&A』大月書店. 2000. (共著)
- 『日本の地形レッドデータブック第2集』古今書院. 2002. (青木賢人と共編著)
- 『自然環境の生い立ち 第3版』, 朝倉書店. 2002. (田淵 洋編, 共著)
- 『身近な環境を調べる』古今書院. 2002. (小泉武栄・原 芳生編著, 崖の自然を調べる, 湧水と川を調べる, 畑の自然を調べる, たんぼの自然を調べる, 植生から環境をよむ, あると便利な環境調査器具, 災害の歴史を調べる, 自らの安全のためにを分担)
- 『百名山の自然学』古今書院. 2002. (清水長正編, 燧ヶ岳・至仏山, 苗場山, 浅間山, 劔岳, 乗鞍岳, 北岳, 光岳を執筆)
- 『我ら皆, 山の民』国際山岳年日本委員会発行. 2003. (国際山岳年日本委員会編, 分担執筆)
- 『キャンパス周辺散ガイド』東京学芸大学出版会. 2003. (分担執筆)
- 『新編 新しい社会科地図』東京書籍. 2005. (共著)
- 『新日本山岳誌』ナカニシヤ出版. 2005. (日本山岳会編, 「日本山岳概説」I 章2 節一項「山地の気候」10-21, 二項「山の植生と動植物」22-39, 三項「湖沼・湿原」40-45 (共著), 四項「山の地質」46-54, II 章2 節一項「東北地方」135-142, 三項「中部地方」152-163 を分担執筆)
- 『日本の地形5—中部』東京大学出版会. 2006. (町田 洋・松田時彦・海津正倫と編著)
- 『地理教育用語技術事典』帝国書院. 2006. (山口幸男ほか編, 分担執筆)
- 『日本の地域を調べる』古今書院. 2007. (上野和彦・高橋日出男編, 分担執筆)
- 『自然地理学概論』朝倉書店. 2008. (高橋日出男と編著)
- 『身近な環境を調べる 増補版』古今書院. 2009. (原芳生と編著, 新たに「植生から環境を読む」110-115, 「災害の歴史を調べる」132-133, 「自らの安全のために」134-135 を執筆)
- 『顕彰碑にみる人物登山史』日本山岳文化学会. 2011. (日本山岳文化学会登山史分科会編, 志賀重昂の章 52-57 を分担執筆)
- 『燕岳—四季へのいざない』毎日新聞社. 2011. (岩橋崇至写真集, 「北アルプスの地形・地質と植生」84-89 を分担執筆)
- 『日本の山—自然が素晴らしい山50選』朝倉書店. 2012 (編著)
- 『山の「あれなに」図鑑』山と溪谷社. 2012. (監修, 執筆)
- (監修)
- 『川の総合学習 (全3巻, 岡崎 務著)』ポプラ社. 2004.
- 『ビジュアル学習—日本のくらし (全5巻)』旺文社. 2005.
- 『北アルプスの自然と人 (大町山岳博物館展示案内)』市立大町山岳博物館. 2005.
- 『びっくり地理探検隊 (全4冊)』ベネッセコーポレーション. 2007.
- 『川ナビブック (全2巻)』教育画劇. 2010.
- 『生物多様性の研究 (岡崎 務著)』PHP. 2011.

報告書

- 大井川源流部原生自然環境保全地域の地形と植生
『大井川源流部原生自然環境保全地域調査報告書』環境庁・日本自然保護協会: 3-42. 1981.

- 高瀬ダム建設による湖岸域の地形変化. 『高瀬川流域自然総合追跡調査報告書』長野県大町市 : 13-32. 1981.
- II 地形. 『上信越高原国立公園自然公園内環境調査』国立公園協会 : 2-33. 1984. (柳町 治と共著)
- II 地形. 『妙義山荒船佐久国定公園 自然公園内環境調査』国立公園協会 : 2-16. 1984. (柳町 治と共著)
- II 地形. 『秩父多摩国立公園 自然公園内環境調査』国立公園協会 : 2-21. 1984. (柳町 治と共著)
- 高山地域における最終氷期以降の岩屑生産と斜面形成. 『日本における沖積平野・沖積層の形成と第四紀末期の自然環境とのかかわりに関する研究 (科学研究費報告書 代表者井関弘太郎)』93-107. 1988. (関 秀明と共著)
- 八丈島の地形・地質. 『八丈島自然公園内環境調査』国立公園協会 : 1-28. 1994.
- 至仏山の地形・地質と特異な地生態系の成り立ち. 日本自然保護協会編『至仏山環境共生推進計画調査事業報告書』 : 57-76, 111-131. 2005. (辻村千尋と共著)
- 短文・随筆・その他**
- ダム湖と崩落—高瀬ダムの場合—. 山と博物館 (大町山岳博物館) 27(5) : 4. 1982.
- 北アルプス白馬・鹿島槍連峰の強風地における植生観察. 長野県植物研究会誌 17 : 8-11. 1984.
- 南極アルゼンチン基地滞在記—基地の人々と生活. 地理 34(1) : 101-107. 1989.
- 崑崙山脈の構造土と岩塊斜面. 地学雑誌 98 : 口絵写真 1-2. 1989.
- 鈴木由告先生とカタクリ研究. 日本の生物 4(3) : 48-52. 1990.
- 田無にはなぜ縄文遺跡がないか. 貫井だより 5 : 1-2. 1990.
- 田無における遺跡の立地と石神井川の変遷. たなし市史研究「たなしの歴史」 2 : 62-72. 1990.
- 鈴木由告先生の二, 三の思い出. カタクリ研究 7 : 4-7. 1990.
- 世界の氷河地形. 教室の窓—中学社会 新しい社会. 342 : 6-7. 1990.
- 田無における都市水害. たなし市史研究「たなしの歴史」 3 : 51-60. 1991.
- 三頭山の自然と台風禍—自然地理からみた『都民の森』問題. 月刊東京 113 : 1-5. 1992.
- やる気ある学生は課外ゼミに出たら. 朝日新聞 1993年8月22日声欄. 1993.
- 森へのいざない—森林活動をサポートする. 36. 森林の立地にも注目しよう. 林業技術 614 : 32-35. 1993.
- 座談会「自然の新しい意味づけを考える」—生物レッドデータから地形レッドデータへ. 地理 38(3) : 18-33. 1993. (小泉武栄・中井達郎・清水善和)
- 『日本の地形レッドデータブック』の作成にむけて. 地理 38(3) : 37-42. 1993.
- 自然・生活文化体験ガイドマップ 15「国分寺崖線と野川」. 野外における環境教育 (東京学芸大学野外教育実習施設事業報告) 7 : 80-85. 1993.
- 自然保護と「山の自然学」. 自然保護 380 : 10. 1994.
- 寒冷地形の特性とは. 森林航測 172 : 11-15. 1994.
- 山の植生図—分布図をつくる楽しみ—. 地図情報 14(1) : 20-22. 1994.
- 滑るカンアオイ (植物と山の自然史 1). UP (東京大学出版会) 255 : 31. 1994.
- 小氷期のレリッケー—三頭山のブナ林 (同 2). UP 256 : 31. 1994.
- 北斜面に生える東京のカタクリ (同 3). UP 257 : 33. 1994.
- 寸づまり現象の謎—清澄山のヒメコマツ (同 4). UP 258 : 63. 1994.
- 海辺の高山植物—礼文島 (同 5). UP 259 : 31.

1994.
 永久凍土と植物群落—大雪山小泉岳 (同6). UP
 260 : 39. 1994.
 馬づらのコマクサー地質が決める高山植物の分布
 (同7). UP 261 : 39. 1994.
 断層—イワスゲ—タカネヒカゲ—北アルプス南岳
 (同8). UP 262 : 31. 1994.
 砂礫地のエーデルワイス—中央アルプス (同9).
 UP 263 : 31. 1994.
 日本の森林限界は低すぎる—北アルプス蝶ヶ岳 (同
 10). UP 264 : 31. 1994.
 洪水がないと困る—多摩川のカワラノギク (同
 11). UP 265 : 31. 1994.
 地形の保護と自然保護 (同12). UP 266 : 30.
 1994.
 川にみる自然のつながり—地理学からみた川. ジャ
 パンランドスケープ 32 : 43. 1994.
 山の自然学の試み (連載エッセイ: 自然と私). 遺
 伝 49(1) : 4-5. 1995.
 棚田の石垣を保存しよう. 地域文化 31 : 1. 1995.
 日本の高原・世界の高原. こんにちは さくら銀
 行です 1995 盛夏号 : 4-5. 1995.
 黄河源流—チベット高原に舞うカモメ. 岩田修二・
 小嶋 尚・小野有五編『世界の山やま—ヨーロッ
 パ・アメリカ・両極編』古今書院 : 137-138.
 1995.
 国土の自然を読む—自然地理学からみた日本の自
 然と国土利用. BIO City8 : 47-51. 1996.
 武蔵野の丘陵から三頭山へ—身近な自然を見直し
 てみよう. 岳人 1996年2月号 : 27-29. 1996.
 自然が人を教育する—自然地理学の視点から. BIO
 City10 : 54-59. 1996.
 日本の自然の豊かさとは?—国土の自然を読む.
 THE 地球人 1 : 8-16. 1997.
 氷河時代と現在. 駒澤大学高等学校研究紀要 20 :
 11-15. 1998.
 高山の地形学. 山と溪谷 1998年8月号 : 64-67.
 1998.
 なぜ高山植物は貴重なのか. 岳人 1998年9月号 :
 145-146. 1998.
 氷河がつくった岩の殿堂—槍・穂高の自然. 『槍・
 穂高—岩橋崇至写真集—』山と溪谷社 : 106-107.
 1999.
 木をみて森をみて山をみよう. 森林インストラク
 ター会報 no. 29 : 1. 1999.
 尾瀬の地形のなりたち. 自然保護, no. 440 : 35.
 1999.
 知的登山のすすめ. 保険展望(簡易保険加入者協会)
 46-4, 14-15.. 1999.
 高層湿原の話. みずのわ(前澤工業株式会社“み
 ずのわ”発行委員会)113:14-17. 1999.
 丘陵地で生きるカンアオイ—地表変動と乾燥の狭
 で. 多摩のあゆみ 96 : 38-51. 1999.
 日本の山の自然は魅力たっぷり. Dental
 Diamond2000(8) : 162-176. 2000.
 尾瀬の自然のなりたち. 日本の山と溪谷7『尾瀬』
 山と溪谷社 : 89-91. 2000.
 日本の自然—国土と自然を世界に位置づける. 東
 書教育情報ニューサポート中学社会・地図.
 2001年4月号 : 2-5. 2001.
 地形・地質 12億年の歴史を体現する花たち—地
 質のなりたちと植物の関係. 山と溪谷 2002年3
 月号 : 66-69. 2002.
 世界一の風が作る種の多様性—風食がもたらす植
 物群落. 山と溪谷 2002年3月号 : 70-71. 2002.
 不思議を発見する山歩き—不安定な砂礫地に育つ
 コマクサ. 植物の自然誌プランタ 82 : 14-19.
 2002.
 南北 違いのわかる話 山の自然学的南北アル
 プス比較論. 山と溪谷 2003年7月号 : 52-53.
 2003.
 小泉武栄センセイの謎解き山の花学. 岳人 2003年
 7月号別冊夏山 2003 : 9-14. 2003.
 わたしたちの地球 119, 氷河時代の話, 保険展望

- 2003年3月号：14-15. 2003.
- 縞枯れ現象はなぜ起きる. フィールドトレック八ヶ岳・霧ヶ峰 (山と溪谷社)：43. 2003.
- 澗沢カールの生成・日本最大のカールはこうして造られた. フィールドトレック上高地・乗鞍 (山と溪谷社)：53. 2003.
- 縞枯れ現象はなぜ起きる. フィールドトレック八ヶ岳・霧ヶ峰 (山と溪谷社)：43. 2003.
- 澗沢カールの生成・日本最大のカールはこうして造られた. フィールドトレック上高地・乗鞍 (山と溪谷社)：53. 2003.
- テーマ書評「知的山歩き」の魅力. 中央公論 2003年12月号：257-259. 2003..
- なるほど山の自然学①～⑨. しんぶん赤旗 2003年7月3日～8月. 2003.
- 富士山・宝永火口を訪ねる—爆裂火口に生きる植物たち (不思議を発見する山歩き 1). 登山時報 2003年2月号：12-13. 2003.
- 富士山の天地境を歩く—特異な森林限界のせめぎ合い (同 2). 登山時報 2003年3月号：16-17. 2003.
- 天明の大噴火と浅間山—植生の違いが示す噴火活動の推移 (同 3). 登山時報 2003年4月号：10-11. 2003.
- 北八ヶ岳・縞枯山—縞枯が起きる場所に秘密あり (同 4). 登山時報 2003年5月号：16-17. 2003.
- 大峰山系・八剣山—岩塊斜面に生じた縞枯れトウヒ林 (同 5). 登山時報 2003年6月号：16-17. 2003.
- 飯豊山地—風食地に飛び降りてくる高山植物 (同 6). 登山時報 2003年7月号：14-15. 2003.
- 北アルプス—劔岳はなぜあれほど鋭いのか (同 7). 登山時報 2003年2月号：16-17. 2003.
- 早池峰山—太平洋の誕生と低下した森林限界 (同 8). 登山時報 2003年9月号：12-13. 2003.
- 鳥海山—噴火の歴史を反映した植生分布 (同 9). 登山時報 2003年10月号：14-15. 2003.
- 秋田駒ヶ岳—拡大する森と礫地に咲く花々 (同 10). 登山時報 2003年11月号：24-25. 2003.
- 蓮華岳—火山? コマクサの大群落を生む火山岩 (同 11). 登山時報 2003年12月号：20-21. 2003.
- テーマ書評「知的山歩き」の魅力, 中央公論. 2003年12月号, 257-259. 2003..
- なるほど山の自然学①～⑨, しんぶん赤旗. 2003年7月3日～8月. 2003.
- 里山の保全はなぜ必要か. 林政ジャーナル 38：8-17. 2004.
- 私の桃源郷—奥武蔵の山村・風影. 岳人 2004年9月号：38-39. 2004.
- 雪倉岳—侵食ではなく断層舟窪のできる秘密 (不思議を発見する山歩き 12). 登山時報 2004年1月号：18-19. 2004.
- 木曾駒ヶ岳—2万年前と6万年前の氷河地形 (同 13). 登山時報 2004年2月号：24-25. 2004.
- 木曾駒ヶ岳その2—氷期につくられた大きな岩の斜面 (同 14). 登山時報 2004年3月号：24-25. 2004.
- 穂高岳—険しい稜線はどのようにできたか (同 15). 登山時報 2004(4)：18-19
- 蝶ヶ岳—なだらかな斜面に波打つ森林限界 (同 16). 登山時報 2004年5月号：16-17. 2004.
- 尾瀬ヶ原—なぜ「原」のままなのか, 池塘や縞模様のはげは? (同 17). 登山時報 2004年6月号：20-21. 2004.
- 尾瀬ヶ原その2—尾瀬のおいたち, 高層湿原と対馬海流 (同 18). 登山時報 2004年7月号：18-19. 2004.
- 至仏山—いくつもの条件でやっと成立する自然 (同 19). 登山時報 2004年8月号：16-17. 2004.
- 大崩山—天を衝く岩峰とその生成の秘密 (同 20). 登山時報 2004年9月号：24-25. 2004.
- 傾山—直立した地層がつくる双耳峰 (同 21). 登山時報 2004年10月号：16-17. 2004.
- 富士山その3—御庭から大沢崩れまでを歩く (同

- 22). 登山時報 2004 年 11 月号 : 18-19. 2004.
- 安曇野の扇状地—下流の地形や植生で上流の地質を読む (同 23). 登山時報 2004 年 12 月号 : 16-17. 2004.
- 複雑な地質が織りなす色とりどりのお花畑. 花の百名山 (朝日新聞出版) 2004 年 4 月 4 日号 : 10. 2004.
- 日本随一の人気湿原尾瀬ヶ原「誕生」の秘密. 花の百名山 2004 年 4 月 18 日号 : 8. 2004.
- 世界遺産に推したい植物の宝庫. 花の百名山 2004 年 4 月 25 日号 : 8. 2004.
- 氷河期の生き残りが都内で見られる不思議. 花の百名山 2004 年 5 月 2 日号 : 24. 2004.
- 頂上に広がるまさに天上の楽園. 花の百名山 2004 年 5 月 9 日号 : 8. 2004.
- 沢登りで遭難しかかった東沢に立派な滝が多いわけ. 花の百名山 2004 年 5 月 16 日号 : 8. 2004.
- 山の歴史が生み出す岩塊と森のコントラスト. 花の百名山 2004 年 5 月 30 日号 : 16. 2004.
- 噴火に襲われた植物たちの再生への姿. 花の百名山 2004 年 6 月 13 日号 : 8. 2004.
- 岩層の割れ目が決めるお花畑とハイマツの分布. 花の百名山 2004 年 7 月 4 日号 : 8. 2004.
- 太平洋の底を旅してきた石灰岩に咲くキタダケソウ. 花の百名山 2004 年 7 月 11 日号 : 8. 2004.
- 冬の季節風がもたらす高山・亜高山性の植物. 花の百名山 2004 年 7 月 18 日号 : 8. 2004.
- 知的登山のすすめ—地形・地質から自然を見る. 国立公園 630 : 8-11. 2005.
- 自然観察 目のつけどころ. まずは山の形を観察してみよう. 登山時報 2005 年 3 月号 : 4-7. 2005.
- 不思議がいっぱい・高尾山 (山の自然学誌上講義 1). 大人の遠足マガジン (JTB パブリッシング) 2005 春 : 44-47. 2005.
- 富士山の森林限界の不思議 (同 2). 大人の遠足マガジン 2005 夏 : 126-129. 2005.
- 自然現象の博物館・草津白根山 (同 3). 大人の遠足マガジン 2005 秋 : 50-53. 2005.
- 葦毛湿原—低地に湿原がある不思議 (不思議を発見する山歩き 24). 登山時報 2005 年 1 月号 : 10-11. 2005.
- 武蔵野台地その 1—小金井・国分寺を歩く (同 25). 登山時報. 2005 年 2 月号 : 16-17. 2005.
- 武蔵野台地その 2—台地は 2 段階で形成された (同 26). 登山時報 2005 年 3 月号 : 20-21. 2005.
- 武蔵野台地その 3—地下水が減って台地が洪水に (同 27). 登山時報 2005 年 4 月号 : 10-11. 2005.
- 武蔵野台地その 4—地質の断面から読めること (同 28). 登山時報 2005 年 5 月号 : 18-19. 2005.
- 大雪渓を登って氷河地形を見る—白馬岳その 1 (同 29). 登山時報 2005 年 6 月号 : 18-19. 2005.
- 氷河の跡と横にずれた「離れ山」—白馬岳その 2 (同 30). 登山時報 2005 年 7 月号 : 16-17.
- 地質が決める地形と植生—白馬岳その 3 (同 31). 登山時報 2005 年 8 月号 : 20-21.
- 流紋岩, 泥岩, 砂岩や頁岩を見分ける—白馬岳その 4 (同 32). 登山時報 2005 年 9 月号 : 16-17.
- 手取層と巨大崩壊—白山その 1 (同 33). 登山時報 2005 年 10 月号 : 18-19.
- 池をめぐる植生を観察する—白山その 2 (同 34). 登山時報 2005 年 11 月号 : 16-17.
- 溶岩流をおおう湿性草原—雲の平 (同 35). 登山時報 2005 年 12 月号 : 16-17.
- 「なぜ」と「いかに」—植物生態学と地生態学を巡って— JEAS ニュース (日本環境アセスメント協会) 108 : 8-9. 2005.
- 里山の保全と市民参加. ぐりーんらいふ (農林中央金庫農林部) 2005 年夏号. 2005.
- かつては桃源郷だった. たとえば旧山古志村—豊かな山間地を自然地理学から見る. BIO City31 : 2-3. 2005.
- 日本の自然を見直す. 下高井教育 (下高井教育会) 35 : 199-204. 2006.

- 環境アセスメント技術者のための地生態学 (Geoecology) 入門. 環境アセスメントにおける生態系調査解析手法 (日本環境アセスメント協会): 133-141. 2005.
- 知的登山のすすめ—地形・地質から自然を見る. 国立公園 630: 8-11. 2005.
- 不思議を発見する山歩き. 学士会会報 861. 89-103. 2006.
- カタクリ・生きるための戦略 (山の自然学誌上講義 4). 大人の遠足マガジン 2006 年春号: 112-115. 2006.
- 白馬岳に氷河の痕跡を探る (同 5). 大人の遠足マガジン 2006 年春号: 52-55. 2006.
- 大月周辺で大地の動きを探る (同 6). 大人の遠足マガジン 2006 年夏号: 74-77. 2006.
- 不思議な東伊豆の地形を解く (同 7). 大人の遠足マガジン 2006 年秋号: 56-59. 2006.
- 雲の平 2—祖父岳山頂で花崗岩を発見 (不思議を発見する山歩き 36). 登山時報 2006 年 1 月号: 20-21. 2006.
- 東赤石山—四国を代表するかんらん岩の秀峰 (同 37). 登山時報 2006 年 2 月号: 22-23. 2006.
- 岩殿山—礫岩がつくる岩峰 (同 38). 登山時報 2006 年 3 月号: 22-23. 2006.
- 猿橋—峡谷はなぜできたか (同 39). 登山時報 2006 年 5 月号: 20-22.
- 槍ヶ岳—槍ヶ岳の穂先はなぜ尖っているのか (同 40). 登山時報 2006 年 6 月号: 20-22. 2006.
- 苗場山—溶岩台地上に発達した高層湿原 (同 41). 登山時報 2006 年 7 月号: 20-22. 2006.
- 金北山, 妙見山, 強風がもたらした高山植物 (同 42). 登山時報 2006 年 8 月号: 20-22. 2006.
- 回復しつつある荒原植生 (同 43). 登山時報 2006 年 9 月号: 22-23.
- 小菅村から大菩薩峠へ—森林植生の見本園 (同 44). 登山時報 2006 年 10 月号: 22-23. 2006.
- 北アルプス薬師岳—植被が乏しい理由 (同 45). 登山時報 2006 年 11 月号: 22-23. 2006.
- 安達太良山 1—復活したキタゴヨウ林 (同 46). 登山時報 2006 年 12 月号: 22-23.
- 私の読んだ 3 冊, 図書 (岩波書店). 2006.
- 高尾山の価値をめぐって (特集: 現代社会とサウンドスケープ). サウンドスケープ 9: 11-24. 2007. (小泉武栄・峰岸純夫・大門信也・鳥越けい子)
- 日本の美しい風景を見直す. 国立公園 651: 4-7. 2007.
- 日本列島の「冬」と「冬」が作った自然環境. 自然保護 495: 3-5. 2007.
- 黄河源流探検紀 (第 1 話, 第 2 話). 山から始まる自然保護 (山の自然学クラブ) 6: 83-96. 2007.
- 三頭山で豪雨の作った森林を観察する (山の自然学誌上講義 8). 大人の遠足マガジン 2007 年春号: 106-109. 2007.
- 本州最大の高層湿原—尾瀬ヶ原 (同 9). 大人の遠足マガジン 2007 年夏号: 106-109. 2007.
- なぜ細長い沼が平行に並ぶ地形ができたのか—北海道長沼湖沼群 (同 10). 大人の遠足マガジン 2007 年秋号: 80-83.
- 薬師岳のカール. 山と溪谷 2007 年 7 月号: 66-67. 2007.
- 東北の不思議に会いにゆく ①地形編. 山と溪谷 2007 年 8 月号: 62-63. 2007.
- 安達太良山 2—生々しい噴火の影響 (不思議を発見する山歩き 47). 登山時報 2007 年 1 月号: 22-23. 2007.
- 比企丘陵・二ノ宮山—グリーンタフの不思議な丘 (同 48). 登山時報 2007 年 2 月号: 22-23. 2007.
- 鹿島古墳群と荒川の河床—河床に生じた凹凸の謎 (同 49). 登山時報 2007 年 3 月号: 22-23. 2007.
- 犬山のチャート—古生代末の生物大絶滅の痕跡を探る (同 50). 登山時報 2007 年 4 月号: 22-23. 2007.
- 飛水峡—日本最古の岩と巨大窟穴 (同 51). 登山時

- 報 2007 年 5 月号 : 22-23. 2007.
- 房総丘陵と小櫃川一礫のない箱型の川 (同 52). 登山時報 2007 年 6 月号 : 22-23. 2007.
- 房総丘陵・清澄山—ヒメコマツはなぜ存続したのか (同 53). 登山時報 2007 年 7 月号 : 22-23. 2007.
- 飯縄山—ブナ林を欠く頑強な山 (同 54). 登山時報 2007 年 8 月号 : 22-23. 2007.
- 磐梯山—大崩壊の後の植生回復 (同 55). 登山時報 2007 年 9 月号 : 22-23. 2007.
- 立山・弥陀ヶ原—タテヤマスギの不思議な森 (同 56). 登山時報 2007 年 10 月号 : 22-23. 2007.
- 旧山古志村など—なぜ山中に人がたくさん住んでいるのか (同 57). 登山時報 2007 年 11 月号 : 22-23. 2007.
- 黒斑山 1—ロックガーデンを見る楽しさ (同 58). 登山時報 2007 年 12 月号 : 22-23. 2007.
- 地学・自然地理学の復権を. サイエンスポータル (<http://scienceportal.jp/HotTopics/opinion/43.html>). 2008.
- 小泉先生の観察ノート—シデコブシ. 大人の遠足マガジン 2008 年春号 : 58. 2008.
- 氷河時代の生きた化石・カタクリ. 生産性新聞 2008 年 4 月 5 日号. 2008.
- 日本の自然の豊かさについて考える. BIO City40 : 34-39. 2008.
- 黒斑山 2—間近にみる浅間山の偉容 (不思議を発見する山歩き 59). 登山時報 2008 年 1 月号 : 22-23. 2008.
- 桜島 1—荒々しい火山の地形 (同 60). 登山時報 2008 年 2 月号 : 22-23. 2008.
- 桜島 2—溶岩の噴出時期によって異なる植物群落 (同 61). 登山時報 2008 年 3 月号 : 22-23. 2008.
- 渥美半島のシデコブシ—成因のまったく異なる生育環境 (同 62). 登山時報 2008 年 4 月号 : 22-23. 2008.
- 御嶽山 1—遷移の途中の植物群落 (同 63). 登山時報 2008 年 5 月号 : 22-23. 2008.
- 御嶽山 2—噴火の影響を受けた植物群落 (同 64). 登山時報 2008 年 6 月号 : 22-23. 2008.
- 火山活動がつくった北アルプス. 岳人 2008 年 6 月号 : 44-45. 2008.
- 「森林限界」に広がる世界. 山と溪谷 2008 年 7 月号 : 86-87. 2008.
- 山の自然学の楽しみ. 信州大学山岳科学総合研究所ニュースレター 11 : 2-3. 2008.
- 個性を探る, その前に (山の個性を探る 1). 山と溪谷 2008 年 4 月号 : 188-189. 2008.
- ハイマツのある山, ない山 (同 2). 山と溪谷 2008 年 5 月号 : 196-197.
- ハイマツ帯の起源 (同 3). 山と溪谷 2008 年 6 月号 : 200-201. 2008.
- ハイマツ帯の役割 (同 4). 山と溪谷. 2008 年 7 月号 : 220-221. 2008.
- 大佐渡山脈は日本アルプスの縮図 (同 5). 山と溪谷 2008 年 8 月号 : 188-189. 2008.
- 国際認定へ機運高まるジオパーク. 聖教新聞 2009 年 4 月 29 日文化面. 2009.
- 雨は自然のかく乱に必要なパワー. 自然保護 2009 年 5・6 月号 : 14-15. 2009.
- 格差の是正はまず累進課税. しんぶん赤旗 2009 年 1 月 26 日読者の広場欄. 2009.
- ジオパークで楽しむ自然を学ぶ旅. 地図中心 2009 年 5 月号 : 8-9. 2009.
- 世界ジオパーク—日本で初めて誕生. 自然保護 2009 年 11・12 月号 : 25. 2009.
- 尾瀬を読み解く旅のすすめ. 小原流插花 2009 年 8 月号 : 9-12. 2009.
- 地形・地質の豊かさがもたらす自然の恵み. 日本自然保護協会編「くらしと自然のつながり再発見」: 12-13. 2009.
- 日本の自然の豊かさについて考える 地理学・地質学の視点から. BIO City40 : 34-35. 2009.
- 火山の植生を読む 1 安達太良山. 山と溪谷 2009 年

- 1月号：182-183. 2009.
- 火山の植生を読む2 霧島山・高千穂峰. 山と溪谷
2009年2月号：158-159. 2009.
- 火山植生から噴火の歴史を読む. 山と溪谷 2009年
3月号：166-167.
- 書評：増沢武弘「南アルプス お花畑と氷河地形」.
山と溪谷 2009年4月号：142. 2009.
- 雪の下で（見えない自然感じる山1）. 山と溪谷
2009年4月号：258. 2009.
- 雪解け水（同2）. 山と溪谷 2009年5月号：274.
2009.
- 色, いろいろ（同3）. 山と溪谷 2009年6月号：
258. 2009.
- 登山道（同4）. 山と溪谷 2009年7月号：274.
2009.
- 風のいたずら（同5）. 山と溪谷 2009年8月号：
242. 2009.
- 湿原の中（同6）. 山と溪谷 2009年9月号：242.
2009.
- 霜（同7）. 山と溪谷 2009年10月号：242. 2009.
- 木の実（同8）. 山と溪谷 2009年11月号：242.
2009.
- 冬支度（同9）. 山と溪谷 2009年12月号：242.
2009.
- 氷（同10）. 山と溪谷 2010年1月号：258. 2010.
- 温泉（同11）. 山と溪谷 2010年2月号：226.
2010.
- 芽生え（同12）. 山と溪谷 2010年3月号：226.
2010.
- おおらかな五輪に感心. 東京新聞 2010年3月4日
発言欄. 2010.
- 地学・自然地理学教育の充実を. 生産性新聞 2010
年4月5日識者の眼欄. 2010.
- 反捕鯨に納得できず. 東京新聞 2010年4月ミラー
欄. 2010.
- 問いかけることからすべてが始まる（インタ
ビュー）. 初等理科教育 550：4-9. 2010.
- 絶佳の空中庭園ガイド. ソトコト 133：58-65.
2010.
- 地味な植物の地道な戦い—タマノカンアオイとカ
ントウカンアオイ（植物はなぜそこにある1）.
小原流挿花 2010年1月号：40. 2010.
- 貴重種の集合体・東海丘陵要素—シデコブシとヒ
トツバタゴ（同2）. 小原流挿花 2010年2月号：
38. 2010.
- 渥美半島のシデコブシ（同3）. 小原流挿花 2010年
3月号：38. 2010.
- 東京のカタクリ—氷河時代からの生きた化石（同
4）. 小原流挿花 2010年4月号：40. 2010.
- 東京・浅間山にしか分布しないムサシノキスゲ（同
5）. 小原流挿花 2010年5月号：38. 2010.
- 日本の高山に高山植物がある不思議（同6）. 小原
流挿花 2010年6月号：38. 2010.
- 不安定な砂礫地に育つコマクサ（同7）. 小原流挿
花 2010年7月号：40. 2010.
- ウスユキソウの仲間と蛇紋岩植物（同8）. 小原流
挿花 2010年8月号：38. 2010.
- 岩塊斜面が押し下げた森林限界（同9）. 小原流挿
花 2010年9月号：38. 2010.
- 風になびくシラタマホシクサ（同10）. 小原流挿花
2010年10月号：40.
- 富士山の植物—火山活動と風雪に耐えて（同11）.
小原流挿花 2010年11月号：38. 2010.
- 川の流れが作る植物分布（同12）. 小原流挿花
2010年12月号：38. 2010.
- 生物多様性を支える日本列島の地形・地質と自然
史. 国立公園 689：5-6. 2010.
- ジオパークの魅力と地域振興. 碧い風（中国電力
エネルギー総合研究所）69：4-5. 2010.
- 隠岐諸島島前—世界ジオパークをめざす豪壮な海
食崖（観光地の自然学1）. 地理 56(9)：4-10.
2011.
- 隠岐諸島島後—海岸線の高山植物の咲く不思議（同
2）. 地理 56(10)：6-13. 2011.

伊豆半島東海岸—溶岩と海食がつくる珍しい景観
(同3). 地理 56(11) : 16-25. 2011.

伊豆半島西海岸と中央部—巨木の林とワサビ田を
自然史で読み解く (同4). 地理 56(12) : 10-18.
2011.

東日本大震災と地学・地理教育. サイエンス・ポー
タル ([http://scienceportal.jp/HotTopics/
opinion/190.html](http://scienceportal.jp/HotTopics/opinion/190.html)). 2011.

伝えよう日本の自然3 福島県・磐梯山. 自然保護
525 : 22-25. 2012.

ジオパークと地理教育—地域と地理教育の再評価
をめざして. 中学校社会科のしおり (帝国書院)
2012年度1学期号 : 1-2. 2012.

自然のつながりの大切さ—3.11 から学んだこと.
奔流 (千曲川・信濃川復権の会) 6 : 7. 2012.

南紀州—おすすめの巡検コース (観光地の自然学
5). 地理 57(1) : 4-13. 2012.

佐渡島 (海岸地形編), 日本海に浮かぶ島の地形は
どうつくられたか (同6). 地理 57(2) : 4-11.
2012.

佐渡島 (植生編), 美しい花を眺めて島の自然を考
える (同7). 地理 57(3) : 10-17. 2012.

足摺岬・竜串, ここも早くジオパークに (同8).
地理 57(4) : 10-17. 2012.

室戸岬, 斑礫岩と花崗岩の奇妙な共存 (同9). 地
理 57(5) : 4-11. 2012.

昇仙峡—峡谷を歩く (同10). 地理 57(6) : 25-33.
2012.

秋吉台・平尾台・四国カルスト (同11). 地理
57(7) : 2-3, 64-69. 2012.

飯豊山—細長い県境は自然の宝庫 (同12). 地理
57(8) : 12-21. 2012.

立山—火山と氷河のつくった山 (同13). 地理
57(9) : 10-21. 2012.

焼走り溶岩流と岩手山—火山活動と植物の関係を
推理する (同14). 地理 57(10) : 10-23. 2012.

北長門海岸—海に浮かぶ火山群 (同15). 地理

57(11) : 4-5, 48-56. 2012.

丹後半島 (同16). 地理 57(12) : 6-15. 2012.

この目録は、2012年12月までに小泉武栄先生によって執筆された原著論文、総説、学位論文、著書、報告書、短文・随筆等を、その種類によって分類し、刊行年次順に配列したものである。ご本人の記録に基づいて作成されており、著作の選択および、著作の種類区分はご本人の判断による。

連載記事を連続して記述する場合、紙面の都合のため、2回目以降は、連載名を同と表現している。